

答申を踏まえた実証の取組と今後のガイドライン策定スケジュール

複数の実証を経て、令和8年度中のガイドラインの策定を目指す

これまでの実証の取組

アンケート調査

- 第1回 (R7.3・LINEを活用)
- 第2回 (R7.5・広報さっぽろ・LINEを活用)
- 無作為抽出 (R7.5・郵送)

LINE・広報さっぽろ・郵送の複数手法で実施。情報提供による意識変化等を比較。

大学生を対象としたワークショップ

- 北海道大学 (R7.6)
- 北星学園大学 (R7.10)

議論の手法の検証、若年層の意見や意識変化の参考データを収集。

市民ワークショップ

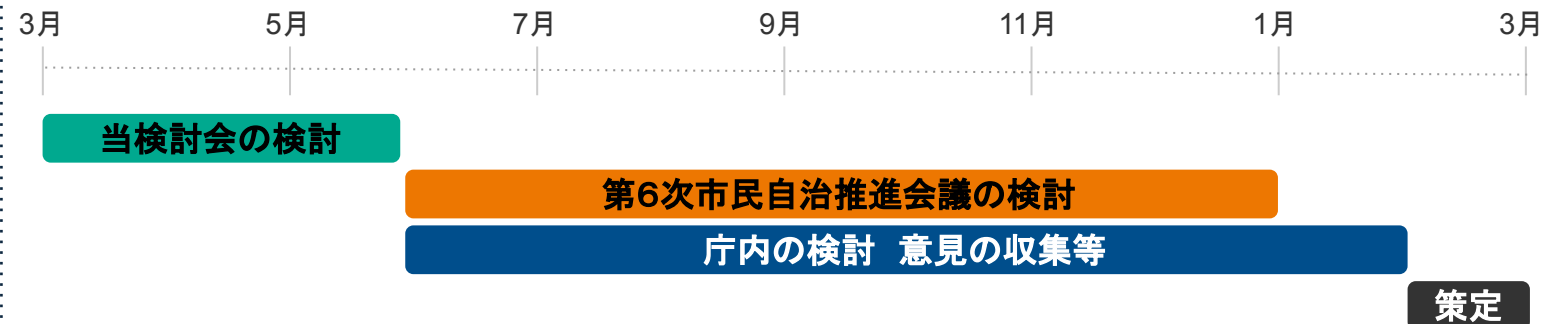
- 第1回 (R7.10)
- 第2回 (R8.2)

3,000名を無作為抽出し、参加者を選出。札幌版議論のフレームを検証。

デジタルプラットフォーム (資料2参照)

- 第1期 (R7.8 - R7.10)
- 第2期 (R7.12 - R8.1)

ガイドライン策定に向けたスケジュール等



	検討の段階	時期	概要
1	当検討会の検討	R8.3-R8.5	ガイドラインの基本的な方向性を整理
2	附属機関の検討	R8.6以降	第6次市民自治推進会議において引き継いで議論
3	庁内の検討	R8.6以降	運用面から検討を加える
4	意見の収集等	R8.6以降	アンケートやワークショップ等を通じて意見を収集
5	策定	R9.2以降	各段階の検討結果を統合し、策定を行う

策定に向けた視点

- 実証から得られた知見に基づき、意見収集や議論の手法の活用場面や留意点を整理する
- 実効性を高めるため、外部委員の視点に加え、庁内においても運用面を考慮した検討を行う
- 策定のプロセスそのものに市民の声を取り入れ、市民参加を実践する